

a 学校教育目標	学びあい、思いあい、高めあいのできる児童の育成 「三愛」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像)地域から信頼され、自校に誇りを持てる学校
----------	---------------------------------	----------------------	---

評価計画				自己評価						改善方針		学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	7月	1月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント	
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力の向上	確かな学力を身に付けた児童の育成	◎深い学びによる確かな学力の定着 ・問題場面を把握し、主体的に考えようとする態度の育成 ・問題や友達と対話しながら課題解決していく力の育成(知識・情報活用力の育成)	「学びの活性化」:NCC標準学力調査結果を活用した学力向上 (1)算数科の基礎基本の学力の定着を目指した取組 ・標準学力調査結果の分析と活用 ・授業における指導方法の工夫改善 ・ノート指導の徹底 ・算数検定の実施 ・放課後時間の活用	①算数・国語科単元テストの平均点 ②標準学力調査の通過率(全国平均+2P) ③中之町算数検定における正答率	①80点 ②100% ③80%	①83点 ②84%	①84点 ②国語52.4% ③算数53% ④94%	①105% ②105% ③112%	A	(1)算数科の基礎基本の学力の定着を目指した取組 ①算数・国語科単元テストの平均点:国語85点, 算数83点 結果から、学校全体としては目標値の80点を達成することができた。これは、考え方の見える授業づくりを行い、授業の中で根拠を考へて説明する活動を大切にできた結果であるとする。課題としては、学年の差が見られることである。特に4年生の算数が平均正答率70点と下がっている。中でも「式と計算の順序」「概数」「割り算の筆算」に課題が見られた。 ②1月に実施した標準学力調査の結果は、国語52.4%(全国比+2.4%)・算数53%(全国比+3%)であった。この結果より、目標値である全国平均+2Pは達成した。 ③中之町算数検定における正答率:93% 結果を見ると、学校全体の正答率は目標値の80%を達成することができた。 1学期の結果を受け、個別の指導を行い、できていない問題を繰り返し取り組んだことで、どの学年も1学期末に実施した結果より高まる結果となった。	(1)算数科の基礎基本の学力の定着を目指した取組 ①算数・国語科単元テストに関する今後の取組 今年度、授業づくり研修を実施し、子どもの姿で授業をつくることをテーマとして授業改善に取り組んできた。また、ノート指導の徹底により、自ら考え学ぶ力を高めてきた。その結果、本気で学ぶ集団へと高まり、一人一人の学力が向上したと考える。今後もこれらの指導を継続し、授業改善を進めていく。また、大きな課題の見られた4年生については、管理職を含めた学年会を開いて課題を確認し、取り組みを進めているところである。3学期の結果が高まるように、担任以外の教員も参加して、複数体制で指導を徹底していく。 ②標準学力調査に関する今後の取組 目標値は達成したが、学年による差が大きい。今後は、今年度の標準学力調査の分析を2月中に実施して課題を明らかにし、今年度の課題は今年度中に克服できるように、チャレンジタイムと学力補充の時間を活用して、個別の指導を徹底していく。また、管理職を含め、専科教員も加わって指導していく。 ③中之町算数検定に関する今後の取組 学期ごとの検定を作成して実施しているので、どの学期の検定においても平均正答率が高まるように、残りの時間で繰り返し学習とつまずきの克服を行っていく。	○			・主体的・対話的で深い学びにするために研究も進め、授業改善を行ってきたが、評価指標を見たときに、基礎的な学力のことにしている項目が多い。思考力・判断力・表現力の視点からの指標も必要だと感じる。 ・学年によってばらつきがある。達成できていない学年については、原因分析を行い、その学年が終了するまでに、定着させておかなければならない。
豊かな心の育成	向上心と団結力のある児童の育成	◎生徒指導の充実 ・目標に向けて本気で挑戦し、粘り強くやりぬく児童(やりぬく力の育成) ・当たり前のことを当たり前に行うことで、自分も相手も大切にすることを児童(よりよい空気を作る意識の醸成)	(1)学級・学年の向上心と団結力を高める集団づくり ・学級・学年で目標に向けて本気で挑戦することのできる学校行事・児童会行事の実施 (2)よい空気を作っていこうとする意識の構築 ・代表委員会や児童朝会を充実させ、児童会本部が中心となって掲げた目標を学校全体で意識して生活する取組の充実	(1)行事の振り返りで肯定的評価をした児童の割合 ・「目標をもって行事に取り組んだか」 ・「自分と仲間のために最後までやりぬくことができたか」 (2)児童会目標の振り返りで肯定的評価をした児童の割合	90%	(1)93% (2)85%	(1)98.5% (2)93.5%	(1)109% (2)110%	A	(1)学級・学年の向上心と団結力を高める集団づくり 行事の振り返りで肯定的評価をした児童の割合 ①目標をもって行事に取り組んだか:97.8% ②自分と仲間のために最後までやりぬくことができたか:99.2% この結果から、ほぼ全員の児童が目標をもって、最後までやりぬくことができたと感じることができており、向上心と団結力のある集団へと成長できていると感じることがわかる。 課題としては、一部の児童の目的意識や意欲を引き出すことができていないことが挙げられる。 (2)よい空気を作っていこうとする意識の構築 児童会目標の振り返りで肯定的評価をした児童の割合は学校全体では93.5%であった。この結果から、多くの児童が月ごとの児童会目標を意識して生活することができていると感じており、自分たちで考案した、めざす学校「本気で挑戦!チーム中之町」に近づいていると考えている。 課題としては、85%前後という学年があり、児童会が設定した月目標を自分事としてとらえられていない児童もいる。	(1)学級・学年の向上心と団結力を高める集団づくり 今年度は年間を通して、児童会本部が主体となって決めた学校目標に基づき各クラスの目標を設定して様々な行事に取り組んだ。その結果、多くのクラスが自分たちの目指す姿を具体的にイメージし、その姿に向けて練習に取り組む、本気でやりきることができた。 来年度は、取組を継続してだけでなく、一人一人の思いを活かした練習にしていく。また、今回、向上心と団結力の向上に参加できなかった児童が意欲的に参加できるようにするために、クラス全員で行う良さを価値付け、互いに励まし合う声掛けができる集団にする。 (2)よい空気を作っていこうとする意識の構築 クラスで毎日振り返りを行ったこと、毎月、朝会で全員の頑張りを紹介したこと、花丸で評価し掲示したこと等、フィードバックを丁寧に行ったことで、子どもたちは自分と向き合い、意識を高めることができた。しかし、数値の低かった学年もあったため、月目標を各教室に掲示し、可視化することで、一人一人の意識を高め、自分事としてとらえられるようにする。	○			・課題として一部の意識が高まらない児童がいるということであるが、完全に100%は難しいと思うが、様々な方法で意識づけや意欲を高めていくことは重要である。
健やかな体の育成	健康を考える児童の育成	○基礎体力(走力)の向上	(1)走力改善のための取組みの推進 ・朝の時間や休憩時間、体育の時間での走力向上を目指した取組の推進	(1)走力テスト(シャトルランを年2回実施)において、前回比で向上した児童の割合	80%	72%	86%	108%	A	・新体力テスト(20mシャトルラン)の結果から、前回比で向上した児童の割合は、86%であった。今年度から実施している朝会時を使つてのマラソンの成果であるとする。また、全国平均と比較した際、6学年中、5学年が全国平均値を上回ることができた。このことから、朝会時でのマラソンを1年間継続して取り組むことで、児童の持久力が向上したといえる。	・今後も継続的に体力向上にむけた取り組みを行っていく。内容としては引き続き持久力を高めたり、今年度新たに見えてきた課題の柔軟性に対しても取り組んでいく。 ・ドッジボール大会やなわとび大会等、体育的行事に向けて、各学級で練習に励むよう目標を決めたり、声を掛けたりすることで、遊びの中で運動に親しめるようにする。 ・今年度実施した新体力テストの結果をもとに行つた研修を生かして、運動量を確保した体育科の授業改善を図る。	○			・今の子どもたちは、スマホやゲームなどをする時間が多く、運動していないのではないかと感じる。学校の中でしっかり体を動かすことに取り組んでほしい。
信頼される学校	保護者・地域から信頼される学校づくり	○保護者・地域との積極的な連携と情報公開	(1)保護者・地域との対話の充実 ・積極的な情報公開 ・問題発生時の迅速対応 ・児童や学級の成長についての連携の充実 ・児童の学びの様子、学校の取組などをしっかり伝える工夫	保護者アンケートの肯定的評価の割合	90%	93%	94%	104%	A	・中間評価のアンケートの結果とほぼ同じだったが、肯定的評価の全体の割合が93.5%と0.5%アップした。中間評価では「4(思う)より3(やや思う)」の方が多かったが、今回の項目も「4(思う)」の数値がアップした。この結果より、学校だよりや学年・学級通信、学級懇談会やホームページなどを通して、学校での活動の様子や児童のがんばりについて積極的に伝えようとして取り組んだことが肯定的に評価されたと思われる。	・「自由記述欄」の意見を参考に改善していき、保護者の心配ごと等に迅速かつ丁寧に対応していく。さらに児童の様子やお願ひしたいことがなど情報発信し、あいさつなど地域・保護者を巻き込んだ「子育てチーム中之町」としての協力をお願いしていく。	○			・信頼される学校づくりのアンケートで、少数ではあるが肯定的評価をしていない項目がある。これについては、しっかりと分析して改善していく必要がある。

本年度の重点目標については◎印で示す。

[j:自己評価 評価]

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

[l:学校関係者評価 評価]

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。ハ:分からない。